

【福岡女学院教会 主日家庭礼拝】

2022. 9. 25.
聖霊降臨節 第17主日

黙想(黙祷)

招詞 すべて重荷を負うて苦労している者は、
わたしのもとにきなさい。
あなたがたを休ませてあげよう。
(『讃美歌21』93-1-7)

讃美歌 210 (来る朝ごとに)

主の祈り

讃詠 28 (み栄えあれや)

聖書 マタイによる福音書 21章1節～17節
(新約 39頁)

信仰告白 使徒信条

メッセージ 「ろばに乗って来られる王」 多田玲一牧師

祈 禱 ※それぞれ自由にお祈り下さい

讃美歌 14 (たたえよ、王なるわれらの神を)

頌 栄 27 (父・子・聖霊の)

黙想(黙祷)

- ◎ 讃美歌は歌詞を読むだけでも結構です。
- ◎ 会堂での礼拝では讃美歌を短縮して賛美します。

【主の祈り】 (『讃美歌21』93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあげさせたまえ。
み国を来(きた)らせたまえ。
みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。
我らの日用(にちよう)の糧(かて)を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、悪より救い出(いだ)したまえ。
国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。
アーメン

【信仰告白 使徒信条】 (『讃美歌21』93-4-A)

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがへり、
天に昇り、全能の父なる神の右に坐したまへり、
かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交はり、罪の赦し、
身体のよみがへり、永遠の生命を信ず。アーメン。



日本基督教団 福岡女学院教会

牧師 多田玲一

協力牧師 青木麻里子、大島一利

〒811-1321 福岡市南区柳瀬1丁目41-32

TEL 092-591-5627 (Fax 兼)

教会ホームページ [http:// www.fukujoch.com/](http://www.fukujoch.com/)

(教会創立 1946年6月2日)



◆エルサレムに迎えられる

- 1 一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山沿いのベトファゲに来たとき、イエスは二人の弟子を使いに出そうとして、
- 2 言われた。「向こうの村へ行きなさい。するとすぐ、ろばが見つからないので、一緒に子ろばのいるのが見つかる。それをほどこいて、わたしのところに引いて来なさい。
- 3 もし、だれかが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。すぐ渡してくれる。」
- 4 それは、預言者を通して言われていたことが実現するためであった。
- 5 「シオンの娘に告げよ。『見よ、お前の王がお前のところにおいでになる、／柔和な方で、ろばに乗り、／荷を負うろばの子、子ろばに乗って。』」
- 6 弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにし、
- 7 ろばと子ろばを引いて来て、その上に服をかけると、イエスはそれにお乗りになった。
- 8 大勢の群衆が自分の服を道に敷き、また、ほかの人々は木の枝を切って道に敷いた。
- 9 そして群衆は、イエスの前を行く者も後に従う者も叫んだ。「ダビデの子にホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。いと高きところにホサナ。」
- 10 イエスがエルサレムに入られると、都中の者が、「いったい、これはどういう人だ」と言って騒いだ。
- 11 そこで群衆は、「この方は、ガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ」と言った。

◆神殿から商人を追い出す

- 12 それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで売り買いをしていた人々を皆追い出し、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けを倒された。
- 13 そして言われた。「こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家と呼ばれるべきである。』／ところが、あなたたちは／それを強盗の巣にしている。」
- 14 境内では目の見えない人や足の不自由な人たちがそばに寄って来たので、イエスはこれらの人々をいやされた。
- 15 他方、祭司長たちや、律法学者たちは、イエスがなされた不思議な業を見、境内で子供たちまで叫んで、「ダビデの子にホサナ」と言うのを聞いて腹を立て、
- 16 イエスに言った。「子供たちが何とやっているか、聞こえるか。」イエスは言われた。「聞こえる。あなたたちこそ、『幼子や乳飲み子の口に、あなたは賛美を歌わせた』という言葉はまだ読んだことがないのか。」
- 17 それから、イエスは彼らと別れ、都を出てベタニアに行き、そこにお泊りになった。

※聖書は本文は全て、日本聖書協会『聖書 新共同訳』